

# 要援護者の暮らしの課題を考える

～日本と韓国の事例から～

今、低所得の高齢者の住まいのあり方が、大きな社会的課題になっている。低所得者の住まいとケアのセーフティネット機能を有すると考えられる特別養護老人ホームは、つねに満床状態が続いている。やむにやまれぬ事情により、民家を改修するなどして要介護高齢者の住まいを提供する多くの事業者は、どれだけ良いケア・住みよい環境を提供していても「無届け施設」の枠にくくられ、社会的な信用を得にくい状況に置かれている。

全国コミュニティライフサポートセンター（CLC）では、昨年度に引き続き、貧困研究会（代表 岩田正美／日本女子大学教授）の協力を得て、こうした高齢者の貧困問題について研究を行い、生活保護を含む低所得の要介護高齢者の住まいとケアの実態調査を通じて、自治体による支援策や地域の支え合いによる暮らしの支援の実態を明らかにし、住み慣れた自宅や地域でその人らしく最期まで暮らし続けられるための提案を検討した。また、現状を視覚的に捉えるためにDVDを作成し、今後頒布する予定をしている。本シンポジウムは、こうした昨今の貧困問題について、韓国の事例も比較材料としながら、ともに考えることを目的に開催する。

**日時**

**2010.3.21(日)**

<13:00～17:00>

**会場** 東京大学 本郷キャンパス  
法文2号館2階 二大教室

**定員** 100人

**参加費** 無料

**主催**

◆「制度の谷間に置かれた要援護者の地域での支え合い、社会的自立、雇用創出に関する研究」研究委員会

◆特定非営利活動法人  
全国コミュニティライフサポートセンター

**プログラム**

13:00～13:10 開会

13:10～13:50 ビデオ上映  
「制度の谷間に置かれた要援護者への支援」

13:50～14:20 日本側報告

福島県立会津大学短期大学部 社会福祉学科 教授 下村 幸仁

14:20～14:50 韓国側報告

共に働く財団 事務局長 李 恩 愛

14:50～15:00 休憩

15:00～16:50 ディスカッション

●パネリスト

共に働く財団 事務局長 李 恩 愛

韓国都市研究所 研究員 徐 鐘 均

特定非営利活動法人エス・エス・エス 理事 小 川 卓 也

特定非営利活動法人 理事長 池 田 昌 弘

全国コミュニティライフサポートセンター 主任研究員 五 石 敬 路

財団法人東京市政調査会 主任研究員 五 石 敬 路

16:50～17:00 閉会

**参加申込書** 全国コミュニティライフサポートセンター（CLC） **FAX:022-727-8737**

参加者氏名	①	②	③
ふりがな			
ご所属			
住所	〒		TEL
			FAX
備考			